



CONTENTS

特集コーナー	2
使える！ 行政情報&	3
研究・技術の参考情報	
地域発NEWS	4~8
地域のこの人	9
国有林野所在	10
市町村の魅力紹介	
イベント情報	11
トピックス	12



白神山地・暗門の滝自然観察教育林（青森県中津軽郡西目屋村）
〔提供：津軽森林管理署〕

白神山地にはブナが優占する広葉樹林が広がっています。林内を散策中、アカショウビンのつがいを見つけることができました。

白神山地周辺（青森県側）における ニホンジカの動向

津軽白神森林生態系保全センター

当センターでは、白神山地周辺の生態系モニタリング調査を実施しています。中でも注目されるニホンジカの動向について、これまでの経過と調査結果をご紹介します。

白神山地世界遺産地域（以下、「遺産地域」という）では、遺産登録時に評価された白神山地の顕著な普遍的価値である“東アジア最大の原生的なブナ林とその生態系”を、将来にわたって保全していくことを目標としています。遺産地域を科学的知見に基づき順応的に管理していくため「白神山地世界遺産地域モニタリング計画」（白神山地世界遺産地域連絡会議、2022）を策定して、ブナ林生態系の長期的なモニタリングを実施しています。

遺産地域周辺では平成22年度以降、毎年ニホンジカが確認されるようになりました。ニホンジカは分布拡大による生態系への影響が懸念され、特にその動向が注視されています。このため、平成26年度から東北地方環境事務所と東北森林管理局では赤外線センサーカメラ（以下「カメラ」）を用いた「中・大型哺乳類モニタリング調査」を行っています。本調査は先述のモニタリング計画においても重点調査に位置付けられており、当センターでも、青森県側の遺産地域を囲む35箇所にカメラを設置し、調査を行っています。



令和7年度ニホンジカ撮影位置図

「令和7年度白神山地周辺地域における中・大型哺乳類調査報告書（青森県側）」によれば、平成27年度から令和3年度までに確認された個体はオスのみであり、撮影時期が夏～秋に集中している傾向から、分散移

動中の個体が撮影されたものと推測されました。令和5年度にメス3頭が初めて撮影され、令和6年度は1頭であったところ、令和7年度は9頭に増加し、その中には仔ジカも含まれていました。

まだまだ少ないと感じられる方も多いかと思いますが、雌雄を問わず、ニホンジカが撮影された地点の割合は、令和2年度時点で約9%（3箇所）であったところ、令和7年度には約71%（25箇所）まで増加し、過去最多を更新しました。

ニホンジカについては、一部の若いオスが新たな分布域の最前線に定着し、その後にメスがやってくると言われており、メスが確認された周辺では、今後密度が高まる可能性もあることから、引き続き動向を注視してまいります。

本調査報告書は、当センターのウェブサイトに掲載しています。ご興味のある方は是非ご確認ください。



ウェブサイト
はこちら



オス2個体（深浦町No.15）R7.9.19撮影



メス4個体（深浦町No.15）R7.11.10撮影

クマ被害対策としての「緩衝林帯整備」

昨年は、東北各地でクマの出没が相次ぎ、東北森林管理局管内5県における人身被害件数は、全国の約6割を占めたところです。

当局では、政府が策定した「クマ被害対策パッケージ」を踏まえ、市町村からの要望や地域との連携を基本として、①人とクマとのすみ分けのための緩衝林帯の整備、②クマ捕獲のためのワナ設置、残渣処理等のフィールドの提供、③クマの餌となる堅果類の豊凶の把握・情報発信、④クマの生息域となる広葉樹林化・針広混交林化の推進に取り組むこととしています。

取組内容には短期的なものと中期的なものがありますが、今年度もすでにクマが市街地まで出没している現状を踏まえ、まず緩衝林帯の整備から重点的に進めています。民家や公道等に接している国有林において、下草刈り、除伐等を実施し、クマが身を隠しづらい、明るく見通しの良い林内にすることで人とクマとの不用意な遭遇を防ぐこととし、管内市町村からの要望をお聞きし、出没頻度など優先度を考慮しながら実施しています。また、ボランティアの協力もいただきながら、地域と連携した取組も進めています。

緩衝林帯の整備を民有林と一体的・総合的に進めることで、クマ被害対策の効果がより発揮できるものと考えており、関係機関や各県と広域的な連携を進めていきたいと考えています。



緩衝林帯整備（下草刈り）

ご関心のある方は、東北森林管理局森林整備課
(TEL:018-836-2162)へお問合せ下さい。

技術開発課題の進捗と今後の展開

造林の省力化・低コスト化に向けた次世代造林モデルの普及を目指し、「超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の活用」に、全国統一の技術・開発課題として取り組んでいます。

当センターでは、特定苗木※を用い、約2年間効果が持続する超緩効性肥料（ハイコントロール700日タイプ）を育苗期にあらかじめ施し、下刈回数の縮減効果などを検証する試験を行っています。試験は令和7年度に山形森林管理署最上支署で開始され、今年度は秋田森林管理署及び三八上北森林管理署管内にも新たな試験地が設定されました。



植栽前の特定苗木

現地作業は4月中旬の現地確認から始まり、5月にプロット設定及び請負事業者への現地指導を実施しました。

6月中旬には両署の試験地内で苗木の植付けを完了し、その後、苗木の高さや根元の太さを測定する植栽木調査を行い、今後の成長を追跡するための初期データを整理・記録しています。

今後はこれら3箇所の試験地において令和11年度まで下刈回数の縮減効果や植栽適地の生育状況について検証を進め、将来的な実用化と普及に向けた取組を展開していきます。



植栽木の初期調査

※特定苗木：特定母樹由来の苗木。特定母樹はエリートツリーの中でも特に優良な性質を備えた個体

ご関心のある方は、森林技術・支援センター
(TEL:0173-57-9022)へお問合せ下さい。

地域発NEWS

(治山・林道事業の取組)

各（支）署では、集中豪雨や台風等により被災した山地の復旧整備、機能の低下した森林整備等を推進したり、森林の整備・保全や林産物の供給等を効率的に行うための路網整備を推進したりしています。

林道整備事業の取組について

青森

青森森林管理署

林道とは、木を植え、育て、伐採するといった森林の管理経営を行っている育林作業従事者の通勤路や木材の搬出路として必要不可欠なものであり、災害時の対応力向上（避難、生活道路としての利用など）にも重要な役割を担っています。

令和7年度の西口広林道新設工事においては、施工箇所の土質が軟弱で、通常の工法では安定した路体を作ることが難しい状況にありました。このため、調査設計者・施工業者・発注者による三者会議を開催し、技術的指導を受けながら、現地の状況にあった工法で工事を進めることにしました。

対策として、軟弱な土と混ぜて強度を出す「セメント系固化材」で土質改良を行い、強度を高めました。あわせて、路体の下部には地盤の安定や排水、保護を目的とする「土木シート」を敷き路体性能の向上を図りました。さらに、土質の改良を行ったところは、路体の硬さや強度を測る、「コーン指数測定」を実施し、規定の強度が確保されているか確認するなど、品質管理の徹底に努めました。

これらの取組により、軟弱な土質においても、頑丈で長く利用できる林道を作ることができました。

今後も、森林経営を支える基盤として林道整備を着実に進め、「持続的な森林づくり」と「地域の森林資源の有効活用」に取り組んでまいります。



土質改良前



セメント系固化材の投入状況



土木シートの敷設状況



頑丈に作られた林道

地域発NEWS

(森林整備等の取組)

広葉樹材の有効利用と採材技術の向上を目指して
(民有林と連携した採材検討会の取り組み)

秋田森林管理署湯沢支署

秋田

我が国では、広葉樹の供給の多くを輸入に依存していますが、近年、海外における森林資源の減少・劣化等を背景に、国産広葉樹の需要が高まっています。それに伴い、以前は見向きもされていなかった樹種が高値で取引されるなど注目が集まっています。

当支署では、森林の保全整備事業として適切な間伐などを実施し、健全な森林資源の維持増進を推進していくとともに伐採により得られた木材を安定的に供給するという役割も担っています。その中で、貴重な資源である広葉樹をどのように活用していくのが課題となっています。

そのため、当支署では伐採された広葉樹をチップ材だけではなく、一般製材用として少しでも多く流通させることができるよう、採材技術の向上と有利販売に向けた広葉樹採材現地検討会を毎年開催しています。

令和7年度は、支署管内の県、市町村林務担当者をはじめ、木材生産業者や森林組合など多くの関係者に参加していただきました。また、秋田県森林組合連合会から講師を招き、現在の広葉樹材の販売動向や採材するうえでの注意点やポイントについて指導を受けた後、伐倒した広葉樹立木を現地で実際に目にしながら、節や曲がり、腐れなどの欠点を避けてどのように有利に採材するか等を念頭に、3グループに分かれ採材検討を行いました。最後に、各班で検討した結果を発表し合い、疑問点を質問するなど議論を深め、参加者間で認識を共有しました。

今後も、各関係機関と連携を深めながら、国民の財産である国有林材の有効利用に努めるとともに木材利用の促進が図られるよう、取組を進めていきます。

各(支)署では、植栽、保育、間伐等の森林整備を適切に行うことで、健全な森林を造成し、資源の循環利用を推進したり、地域の木材の安定供給体制を構築するため、製材・合板工場等の需要者と協定を締結したりしています。



湯沢支署長のあいさつ



広葉樹材採材検討の様子



検討会参加者全員で採材のポイントを共有



湯沢支署管内国有林の広葉樹を原木市場に出品

地域発NEWS

(病虫獣害対策・森林生態系保全等への取組)

特定外来生物「オオハンゴンソウ」駆除作業

山形

朝日庄内森林生態系保全センター

オオハンゴンソウとは、夏になると鮮やかな黄色い花を咲かせるキク科の植物です。一見するとどこにでもある美しい花に見えますが、日本の自然環境にとっては警戒すべき存在です。

もともとは、明治時代に海外から観賞用として日本へ持ち込まれた植物の一つです。しかし今では野生化し、在来植物を駆逐しながら各地で大群落をつくるようになりました。

こうした繁殖力の強さから、「生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの」として、平成18年に外来生物法改正により「特定外来生物」に指定され、栽培等が禁止されました。自宅の庭などに自然に生えた場合、「花がきれいだから残しておきたい」と思われるかもしれませんが、法律上は厳しく管理される外来植物です。

朝日山地森林生態系保護地域内では、平成29年に山形県朝日町の朝日鉱泉に通じる林道脇で生育が確認されて以降、毎年継続して駆除作業を実施しています。駆除作業をして感じるのは、オオハンゴンソウのしぶとさです。この植物は、地上部を刈り払っただけでは駆除になりません。翌年には何事もなかったかのように芽を出します。そのため、一本ずつ掘り取る地道な作業が欠かせません。

それでも10年間にわたる継続的な駆除の成果もあり、日当たりのよい林道沿いなど、人目につきやすい場所ではほとんど見られなくなりました。一方で、日当たりの悪い林内には、まだ多くの個体がしぶとく生き延びています。半日陰にも適応できるオオハンゴンソウは、人目の付きにくい林内に身を潜めながら、再び勢力を拡大する機会をうかがっているかのようです。

各(支)署・センターでは、希少な高山植物や生態系への脅威となる深刻な病害虫や動物による森林被害への対策を推進したり、森林生態系の保全・管理や自然再生、希少な野生生物の保護等をしたりしています。

完全な駆除には、まだ時間がかかりそうです。磐梯朝日国立公園にも指定されている朝日山地の貴重な生態系を次の世代へ引き継ぐため、オオハンゴンソウとの戦いはこれからも続きます。



オオハンゴンソウ



暗い林内に潜む株を根ごと掘り取る



一時間ほどの作業で百本以上を駆除

地域発NEWS

(ふれあい・管理・総務等の取組)

国有林PRカレンダーの取組

山形森林管理署

山形

山形森林管理署は約77千haの国有林を管理しており、これは管内14市町の森林面積のうち45%を占めています。森林管理署では、治山施設や林道の維持管理、木材の生産、生物多様性の保全など森林に関わる様々な業務を行っています。

しかし、森林管理署の業務内容や国有林については一般の方々に十分に知られているとは言えません。そこで当署では、国有林を身近に感じてもらうため、当署職員が国有林内で撮影した写真を使ってカレンダーを作成し、無料で配布する取組を行っています。この取組は令和元年度に始まり、カレンダーへは蔵王の樹氷や葉山、ドッコ沼など四季折々の美しい自然風景や、林道改良工事や木材生産などの各種事業、植樹活動や森林教育などの様子を写した写真を掲載しています。季節感が伝わるよう掲載月を調整したり、国有林からしか見られない景色を撮影したりと、国有林の魅力や当署の業務を知っていただける内容となるよう工夫しています。

この取組は山形新聞で紹介されたことをきっかけに多くの方に知っていただくことができました。中にはカレンダーを見て山形森林管理署という組織があることを知ったという方や、毎年楽しみにしていると言ってくれる方もいらっしゃいます。カレンダー作りを通じて国有林の仕事を知ってもらうこと、山を身近に感じ国有林の魅力に触れてもらうことができていると感じています。今後も、森林や自然環境への関心を高め、国有林を広く知ってもらうための足掛かりとなるよう、カレンダー作りを続けていきます。

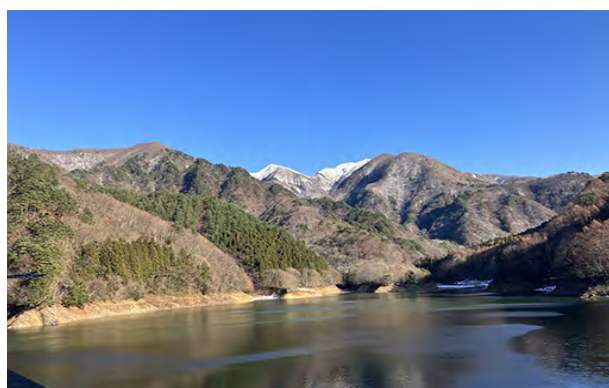


2026年版は
こちら

各（支）署・センターでは、森林環境教育のプログラムの整備やフィールドの提供などによる「森林環境教育」の取組を推進したり、観光資源としての活用等を通じて国民に開かれた管理経営を推進したり、地域産業の振興や住民の福祉の向上等に貢献するために、地元住民等に対して国有林野の貸付を推進したりしています。



2026年版カレンダー



2026年12月に使用した写真（蔵王ダム）



林道改良工事の写真（橋梁架けかえ）



木材生産事業の写真（巻立）

地域発NEWS

(GSS活動報告)

当局では、白神山地世界自然遺産や管内の国定公園等自然豊かな地域において、登山者へのマナーの呼びかけや、植生の荒廃防止などの環境保全を行うため、森林保護員「グリーン・サポート・スタッフ (GSS)」による普及啓発活動に取り組んでいます。

GSS活動報告について

米代西部森林管理署

秋田

米代西部森林管理署の「グリーン・サポート・スタッフ (GSS・森林保護員)」は、世界自然遺産である白神山地周辺(秋田県側)をはじめ、保護林などの管内の国有林において、自然を守るための巡視や入山マナーの呼びかけなど啓発活動している非常勤職員です。

例年、登山の最盛期を迎える7月から10月にかけて配置され、主な活動の舞台は、白神山地の登山ルート、そして巨木の森として知られる^{だけたい}岳岱自然観察教育林やふたつ^{ふたつ}白神郷土の森など多岐にわたります。さらに、地域住民に親しまれている^{ななくらやま}七座山や、日本一の天然秋田杉がある、^{にふなみずさわ}仁鮎水沢スギ植物群落保護林といった入山者の入り込みが多いエリアを幅広くカバーしています。

こうした現場において、GSSは定期的な巡視と利用者への指導・啓発を行っており、ゴミの持ち帰りやトレッキングルート逸脱防止といった入山マナーの周知に加え、近年は生態系への深刻な影響が懸念される外来植物「オオバコ」の侵入を防ぐため、^{ふたつもり}ニツ森や岳岱の登山道入口への靴底泥落としマットの設置や除去作業に力を注いでいます。また、案内看板の清掃や歩道の破損チェックや簡易な修繕、危険個所の表示、倒木の除去やササなどの刈払いといった簡易な維持管理も実施し、登山者が安全に自然を楽しめる環境を支えています。

今後も現場の最前線で対面での啓発と地道な保全を続けることで、豊かな森林生態系の保護と持続可能な観光利用の両立に貢献していきます。



入林者への声掛け(岳岱自然観察教育林)



白神山地巡視管理棟の整備(小岳)



登山口へ向かう林道の倒木除去



オオバコの除去(岳岱自然観察教育林)

地域のこの人

森林や林業の仕事の魅力とは?!

林業業界で働く人と国家公務員「森林官」や森林管理署等で働く人の紹介です。

森を育て未来へつなぐ仕事

秋田

秋田県素材生産流通協同組合
有限会社サンワーク三浦 菅原 由路さん

当社は、秋田県秋田市にあり、森林整備、素材生産、植林・造林、苗木生産を行っています。私は、令和4年2月に入社し、現在5年目を迎えました。

林業の仕事を始めたきっかけは友人から誘ってもらったことでした。最初は分からないことばかりでしたが、優しくておもしろい先輩方に教わりながら楽しく経験を積んできました。

現在は主に高性能林業機械を使って作業を行っています。機械を使って伐倒、造材、積み込み作業することは高い集中力が必要ですが、その分大きなやりがいがあります。その中で思い通りに作業が円滑に進んだり、同じ班の作業員と上手く連携を取り作業が順調にいった時は自分の成長や達成感を感じることができます。また、林業は自然が相手なので激しい雨や風や、雷といった天候に左右される反面、豊かな自然や四季の移り変わりを身近に感じながら働けることは、この仕事ならではの魅力だと感じます。



造材作業中

林業を通じて地域産業への貢献をしていくとともに、森林資源を守り育てながら森林を後世へ継いでいきたいと思っています。

林業に興味のある方は是非、一緒にこれからの林業業界をさらに発展させて盛り上げていきましょう。

森林づくりの最前線

岩手

岩手南部森林管理署遠野支署 大迫森林事務所
森林官 田中 学さん

私が勤務する大迫森林事務所は、旧大迫町と旧宮守町達曽部地区に広がる国有林を管理しています。大迫町はユネスコ無形文化遺産に登録された早池峰神楽、ぶどうやワインの産地としても有名で、達曽部はわさびが特産の地域です。管内には北上山地の最高峰で日本百名山の一つである早池峰山があり、ハヤチネウスユキソウをはじめとする貴重な高山植物が自生する「花の名山」として知られています。

森林官は、森林管理署の窓口、国有林と民有地の境界の管理、林道や森林の被害状況の確認、木材資源の調査、販売した山の跡地の確認、植栽後の下刈や間伐などの森林整備事業の監督業務など幅広い業務を担当しています。早池峰山周辺では、ニホンジカに高山植物等が食べられる被害が増えています。そのため遠野支署ではニホンジカから高山植物等を守る柵を設置する取組を行っています。豊かな自然環境を次世代へ引き継ぐことも森林官の重要な業務の一つです。

森林官の仕事は、未来の森をつくる業務や自然環境を守るための取組など国有林野における森林づくり等の最前線の業務に携わることができる重要な業務だと感じています。



ハヤチネウスユキソウ

国有林野所在市町村の魅力紹介

国有林野の所在している市町村は、自然豊かで、おいしい食べ物や名産品も多くあります。その魅力をふんだんに紹介しています。



山形県鶴岡市

庄内森林管理署

人口 113,385人(R8.7.31現在) 面積 1,311.53km²

市町村の木 ブナ 市町村の花 さくら

山形県庄内地方南部に位置する鶴岡市は、庄内藩の城下町として栄え、日本海から出羽三山、朝日連峰に至る豊かな自然と田園風景に囲まれた、東北一の広大な市域を有するまちです。

古くから山岳信仰の地として知られる「出羽三山」は、日本遺産にも認定されており、国宝・羽黒山五重塔と杉並木が織りなす景観は、多くの参拝者や観光客を魅了しています。

また、市内には湯野浜温泉、あつみ温泉、湯田川温泉など歴史ある温泉地が点在し、それぞれ異なる趣を楽しむことができます。



出羽三山の山岳信仰の象徴「国宝五重塔」

鶴岡市は、日本で初めて「ユネスコ食文化創造都市」に認定されたまちでもあります。庄内平野の農産物や日本海の海の幸、全国的にも有名な「だだちゃ豆」など、多彩な食文化が受け継がれています。



枝豆の王様と称される「だだちゃ豆」

さらに、市内には多くの酒蔵があり、2月に大山地区で開催される「大山新酒・酒蔵まつり」は、自然豊かな風土に育まれた庄内の美酒を楽しむイベントとして人気があります。

夏には「赤川花火大会」が開催され、庄内の夜空を鮮やかに彩ります。また、鶴岡市の誇る「加茂水族館」は、2026年4月に待望のリニューアルオープンを迎え、展示種類世界一のクラゲを観ようと多くの観光客で賑わっています。



圧倒的なスケール!「赤川花火大会」



リニューアルで魅力アップ「加茂水族館」

豊かな森林と自然に支えられながら、歴史、文化、食、観光が調和する鶴岡市。訪れるたびに新たな魅力に出会える地域です。

より詳しい
市町村の魅力はこちらから→



つるおか観光ナビ

お問合せ先：鶴岡市観光案内所 Tel.0235-25-7678

「令和8年度第2回自然再生活動 ～スギ林から広葉樹の森～」

津軽白神森林生態系保全センターでは、白神山地世界自然遺産地域周辺のスギ人工林を広葉樹の森に戻すため、「自然再生活動」に取り組んでいます。森林内での作業を行ったことがない方でも気軽にできる内容となっております。

百年後を見据えた広葉樹林への再生作業を体験してみませんか。
多くの皆様のご参加をお待ちしております。



【開催日】令和8年10月3日(土)

【場所】青森県中津軽郡西目屋村

【定員】15名(応募者多数の場合は抽選)

【参加日】700円程度(傷害保険料・駐車場料)

【実施内容】広葉樹の植樹と暗門第3の滝散策(予定)

【募集期間】9月1日(火)～9月11日(金)

【お申し込み先・お問合せ先】

津軽白神森林生態系保全センター

〒038-2761 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町

大字舞戸町字東阿部野70-82

Tel: 0173-72-2931

Mail: t_shirakami_f@maff.go.jp

詳しくはこちら→



管内の見どころ写真展



美しい森林の風景や国有林事業の様子など、管内各地の見どころをご紹介します。



大畑森林鉄道西の股支線跡(青森県むつ市)

提供: 下北森林管理署

大畑森林鉄道はヒバ材を搬出したほか、薬研温泉へ向かう観光客や沿線集落に住む人々の生活の足としても利用されていました。



茶臼岳山頂から岩手山を望む(岩手県八幡平市) 提供: 岩手北部森林管理署
八幡平三大展望台にも数えられる標高 1,578m からの展望。岩手山や八幡平生物群集保護林のほか、晴れた日には早池峰山や八甲田山、鳥海山、月山など県内外の山々も見渡せます。



飯豊山(山形県西置賜郡小国町) 提供: 置賜森林管理署

標高 2,105mの飯豊山を主峰とする飯豊連峰は、深く険しい尾根とおだやかな稜線を持つ山です。

「カードゲームZORING」のアンケートをはじめました！

森林環境教育教材「ZORING」をイベント等で活用いただく皆様からご意見をいただきたく、アンケートを実施しております。「こんなふうに活用した」「こういった使いかたもある」など、活用事例のほか、使用してみての感想、ご意見をお待ちしております！アンケートフォームはこちらのページから↓
<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/sidou/fukyu/zoringmenu.html>

スマートフォンからの回答はこちら→

ZORINGの活用事例を教えてください



令和7年度の松くい虫被害量およびナラ枯れ被害量の調査結果が公表されました

当局では毎年、管内国有林における松くい虫被害量およびナラ枯れ被害量の調査を実施しています。令和7年度の松くい虫被害は6年度の約3倍と過去最大の被害量となり、うち8割以上が庄内海岸地域で発生しています。ナラ枯れ被害量も6年度の約1.7倍に急増しており、中でも青森県での被害が甚大です。詳しい調査結果については当局ウェブサイトをご覧ください。



松くい虫被害
対策について



ナラ枯れ被害
対策について

第1回シカPTが開催されました

ニホンジカの分布拡大による森林被害等の増加が懸念される中、これまでの生息調査や捕獲事業等で得られた知見を今後の対策に生かすため、8月21日、ニホンジカ対策プロジェクトチーム（シカPT）による会議が開催されました。

会議では、各課による捕獲事業や捕獲効果、造林地被害防止対策、センサーカメラ等での生息調査等についての実施結果を報告・共有しました。今後は、これまでの対策および調査を継続しつつ、外部有識者から聴取した意見等を反映することで対策の実効性向上を図ることとしました。



令和7年度に行われた
現地での勉強会の様子

イベント情報

令和8年度第2回自然再生活動 ～スギ林から広葉樹の森へ～

白神山地周辺の森林を広葉樹林に戻すための植樹活動を行います。詳しくはP11をご覧ください。



お問合せ先

青森県	青森事務所	青森市篠田三丁目22-16	☎017-781-2117	宮城県	宮城北部署	大崎市古川東町5-32	☎0229-22-2074
	津軽署	弘前市大字豊田二丁目2-4	☎0172-27-2800		仙台署	仙台市青葉区東照宮一丁目15-1	☎022-273-1111
	金木支署	五所川原市金木町川倉七ヶ野84-66	☎0173-53-3115	秋田県	米代東部署	大館市上代野字中岱3-23	☎0186-50-6130
	青森署	青森市篠田三丁目22-16	☎017-781-0131		上小阿仁支署	北秋田郡上小阿仁村沖田面字野中376-13	☎0186-77-2422
	下北署	むつ市金曲一丁目4-6	☎0175-22-1131		米代西部署	能代市御指南町3-45	☎0185-54-5511
岩手県	三八上北署	十和田市西二番町1-27	☎0176-23-3551		秋田署	秋田市河辺和田字和田156-3	☎018-882-2311
	津軽白神センター	西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字東阿部70-82	☎0173-72-2931		湯沢支署	湯沢市田町二丁目6-38	☎0183-73-2164
	森林技術・支援センター	北津軽郡中泊町大字中里字亀山540-8	☎0173-57-9022		由利署	由利本荘市水林439	☎0184-22-1076
	岩手北部署	八幡平市荒屋新町41-8	☎0195-72-2221		藤里センター	山本郡藤里町藤琴字大関添24-3	☎0185-79-1003
	三陸北部署	宮古市磯鶏石崎4-6	☎0193-62-6448	山形県	庄内署	鶴岡市末広町23-37	☎0235-22-3331
	久慈支署	久慈市夏井町大崎14-12	☎0194-53-3391		山形署	寒河江市元町一丁目17-2	☎0237-86-3161
	三陸中部署	大船渡市盛町字津野沢7-5	☎0192-26-2161		最上支署	最上郡真室川町大字新町字下荒川200-11	☎0233-62-2122
岩手県	盛岡署	盛岡市北山二丁目2-40	☎019-663-8001		置賜署	西置賜郡小国町大字岩井沢581-45	☎0238-62-2246
	岩手南部署	奥州市水沢東上野町12-17	☎0197-24-2131		朝日庄内センター	鶴岡市末広町23-37	☎0235-26-1841
	遠野支署	遠野市東館町7-39	☎0198-62-2670				

東北森林管理局 ☎010-8550 秋田県秋田市中通 5-9-16 ☎018-836-2014

